

第 3 回琴浦自分ごと化会議結果

会議趣旨	第 2 回会議で委員より提案のあった交通に関する課題をテーマ毎に整理し、テーマに基づいて町民同士による議論を行った。
会議概要	<p>1 日時 12/13 (日) 13 時 30 分～16 時 30 分</p> <p>2 場所 分庁舎 2 階多目的ホール</p> <p>3 参加者 町民委員 17 名、傍聴者 5 名、企画政策課、構想日本</p> <p>4 全体協議 資料に基づき各担当より説明後、委員による議論を実施</p> <p>①公共交通と共助交通の区分について (企画政策課)</p> <p>②第 2 回会議の改善提案中間とりまとめについて (構想日本)</p> <p>③大刀洗町の公共交通について (大刀洗町長)</p>
議論内容 委員意見	<p>課題① 現在の公共交通をいかに維持するか？ (町営バス・タクシー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町営バスは廃止して、乗合いタクシーを充実させる。 ・高校生を親が駅に送迎している。バスに乗った方が安価であることを PR する。 ・利用促進を周知しても乗る人は増えない。公共交通は廃止。交通弱者にも移動の対価は必要。 ・対象者を絞って、交通施策を展開したほうがよい。 ・時間帯によってはバスが必要。将来のことを考えると公共交通は残ってほしい。 ・町営バスは残してほしい。除雪時などバス路線であるから優先して除雪される。 ・アンケート結果など利用者のニーズを反映して運行する。 ・お金のない高齢者のことを考えなくてはならない。交通・医療費を無料にする。 ・タクシーを格安で利用できたら良い。町による半額助成をする。需要が増えればタクシー運転手が雇用でき、台数も増える。 <p>課題② 現在の公共交通をいかに維持するか？ (スクールバス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスではなく、親同士が生徒を自家用車で送迎する仕組みはどうか。 ・朝と夕方は、町が委託したドライバーによる運転がよい。 ・スクールバスの運行は、小学校統合の条件であったので残してもらいたいが、子どもの登下校が確保できるのであれば、町営バスとの一体化はやむを得ない。 ・町の都合で小学校の合併をしたので、スクールバスは運行すべき。一般客との乗合いについては心配していない。 ・スクールバスに一般客は乗る必要はない。学生のみでない安全面に不安がある。

- ・各学校でスクールバスの運転手を確保する。
- ・聖郷小、船上小にそれぞれ2台のスクールバスが必要なのか。
- ・目的地が概ね一緒であれば、生徒と一般客が一緒のバスに乗ればよい。社会性や思いやりを身につける機会になる。地域全体での子育てにつながる。
- ・時間の制約がない一般客は、スクールバスと一緒に乗ればよい。何時何分に駅に着きたいなど時間指定があるときは、タクシーを利用するなど使い分けをする。
- ・スクールバスはいつまで運行できるのか、子どもの出生数は減少している。
- ・スクールバス利用と高齢者の交通とは分けて考えた方がよい。

課題③ 次代を支える移動手段をどう確保するか？（共助交通）

- ・共助交通でも任意の謝礼はよいので、チップ制を町内で確立できないか。
- ・まちづくりセンターを立ち上げ、地域ごとで共助交通を行う。
- ・大刀洗町の巡回バスを地域で実施してみたい。
- ・共助交通のボランティアドライバーは、その人がいなくなると次が続かない。
- ・安田、成美地区の実証実験では、共助交通（小型車両）でないと移動できない人が利用し、感謝されている。利用者には女性が多い。
- ・チップ制の運用により、ドライバーがお金をもらえる仕組み。1人あたり500円。地域通貨とすることで白タク行為とならない形を町は検討してもらいたい。
- ・共助交通は、ボランティアによる生きがいと少しの見返りが必要。
- ・事故が生じた際の具体的なリスクを検討する必要がある。仮に事故で人が死んだ場合、誰が責任を取るのか。
- ・移動だけでなく町内の困りごとをスマホのデータで共有できるシステムができないか。
- ・高齢者の移動は、買い物・通院・金融機関であり、移動スケジュールを決めて動く。
- ・自家用車に乗れなくなる理由で多いのは認知症である。身体的理由は少ない。そういった人は、そもそもバス停まで行けない。ドアツードアが必要。

課題④ 移動販売、在宅医療などを成り立たせるには？

課題⑤ 地域の助け合いをどう考えるか？

課題④⑤については、時間の都合上、郵送にて委員より意見聴取することとなった。